ひとみの悲劇～１８歳以下性体験禁止の世の中で～

ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

この作品はR18描写を含むため、18歳未満の方は閲覧禁止です。

HinaProject Inc.

注意事項

このＰＤＦファイルは小説家になろうグループサイトで掲載中の作品をＰＤＦ化したものです。
このＰＤＦファイルおよび作品の取り扱いについては、小説家になろう利用規約が適用されます。そのため、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止いたします。作品の紹介や個人用途での印刷および保存にはご自由にお使いください。

【作品タイトル】
ひとみの悲劇～１８歳以下性体験禁止の世の中で～

【Ｎコード】
Ｎ２１９９ＢＱ

【作者名】
ｋｏｄｏｍｏｚｕｒｕｍｕｋｅ

【あらすじ】
２０××年、結婚可能年齢が男女とも１８歳と改められた。高等学校、またはそれに準ずる学校への進学がほぼ必修化され、１８歳までは真剣に学業に励むべきという風潮が強まった。昨今の学力低下を受けて、国もようやく動き出した。学力低下と共に社会問題としてとりあげられたのが性の低年齢化であった。それを受けて「１８歳以下（高校卒業前）の性行為は全面禁止」というルールが作られた。性の自由化を求める反対運動も起きたがそれはあっという間に落ち着いてしまった。

そして少女達には恐ろしい道具とルールができあがった。このために開発された最新の道具を膣の中に挿入すると性行為経験の有無がハッキリわかるというものだ。その的中確率は９９．９％とされており信用に値するものだった。そして厳禁とされている性行為を行った１８歳以下の少女には、保護者の同意があれば「クリトリス除去＋小陰唇・大陰唇の部分縫い付け」という処置が認められることになった。

検査

殺風景な処置室、手術着に身を包まれたひとみは不安な思いで天井を見つめていた。手術着の丈は短くひとみの腰までしかない。むき出しの下半身には毛布がかけられていた。まもなく、先程行われた検査の結果が明らかになる。検査の結果によっては下半身を覆う毛布が取り払われ、体の中でも一番敏感な部分に鋭いメスが入ることになる。

２０××年、結婚可能年齢が男女とも１８歳と改められた。高等学校、またはそれに準ずる学校への進学がほぼ必修化され、１８歳まては真剣に学業に励むべきという風潮が強まった。昨今の学力低下を受けて、国もようやく動き出した。学力低下と共に社会問題としてとりあげられたのが性の低年齢化であった。それを受けて「１８歳以下（高校卒業前）の性行為は全面禁止」というルールが作られた。性の自由化を求める反対運動も起きたが、それはあっという間に落ち着いてしまった。

そして少女達には恐ろしい道具とルールができあがった。このために開発された最新の道具を膣の中に挿入すると、性行為経験の有無がハッキリわかるというものだ。その的中確率は９９．９％とされており信用に値するものだった。そして厳禁とされている性行為を行った１８歳以下の少女には、保護者の同意があれば「クリトリス除去＋小陰唇・大陰唇の部分縫い付け」という処置が認められることになった。

高校2年生のひとみは今日、両親に引きずられて病院に来た。ひとみの両親は娘に対し、高校卒業まで一切の恋愛を禁じていた。ひとみは親に見つからないよう慎重に彼氏とのつきあいを続けていたが、勘の鋭い両親は娘のことを疑っていた。ある日、ボランティア活動に行くといって家を出たひとみは大学生の彼氏と楽しい時間を過ごし、帰りは彼の車で送ってもらった。家の近くまで送ってもらうと親に見つかる可能性があるので、家からは大分離れたところで車をおりた。しかし何と運が悪いことに、買い物に出ていた母親が偶然そこを通りかかった。彼の車から降りてくる娘の姿を見つけた母は、自宅に戻ると厳しく詰問した。ボランティア関係の方だと一生懸命弁明したひとみであるが、両親が疑っていることは明らかだった。

なかなか口を割らないひとみに業を煮やした両親は、性行為検査をしに病院へ連れて行くと通告した。そして万一、性体験が認められた場合は処置を行うことも冷酷に告げた。本当にやましいことがないなら素直に検査を受けられるはずだ、絶対に経験ありという結果は出ないはずだと言われてしまってはひとみも返す言葉がない。かくして長期休暇の前にひとみは病院へ連れて行かれることになった。

朝もひとみは激しく抵抗した。なぜ信じてくれないのか、そんな恥ずかしい検査は受けたくないと親に抵抗したが、両親は全く聞く耳を持たず、ひとみを車に乗せてしまった。母が付き添いとして病院に残り父は仕事へと向かった。ひとみは彼と数回の性体験がある。たった一度の性行為も見抜く程精密な器具が複数回体験のあるひとみの膣を見逃すとは思えなかった。道具を挿入されることは即ち処

置を施されるということだ。だから何かと理由をつけて抵抗するひとみであったが、これ以上の手立てはなかった。

予約してあったのですぐ処置室に通された。検査を受けた人の多くが「性体験あり」と判定され、その半数は保護者がその場で処置を命じる。そのため検査も手術着で行われる。下半身むき出しにされ、陰毛を全て除去される。これだけで思春期の少女には大いなる屈辱である。付き添いの母が中ではなく待合室にいることだけはせめての救いである。処置台の上で足を大きく開かれ、しっかりと固定される。そして最新の器具が膣の中に深く入れられる。挿入の前にジェルをぬって潤滑をよくしてはいるが、細長い器具を膣に入れられるのはそれだけでかなりの痛みを伴う。しばらくの間、挿入されていた器具が抜かれて、それから検査結果が出るまで約１０分かかる。この時間が少女達には無限に感じられる。ひとみは天井を見つめながら、まもなく来るであろう魔の時間に覚悟を固めていた。毛布の中にこっそり手を入れ、自らの性器をなでてみる。最初にオナニーをしたのは小学5年生の時だった。母に見つけられ、厳しく怒られたこともあった。何ともいえない甘酸っぱい快感ともまもなくお別れしなければならない。

検査結果が出たようだ。待合室から母親も呼ばれた。医師は顔色一つ変えず母娘に結果を伝える。

「検査の結果、ひとみさんは性体験があるようです」

母は鬼のような顔で娘をにらみつける。ひとみはこらえきれず泣き出してしまった。母は医師に処置を願い出た。処置室の隅にある机に向かい、必要書類に記入をはじめた。

処置

母は泣き出したひとみに目もくれず、書類に記入を続けた。書類の中に、麻酔の有無を選ぶ欄があった。母は一瞬手をとめた。医師がどうするかを確認する。クリトリスを根っこから切除し、小陰唇の上部と下部を縫い付けるこの処置、麻酔を使用しなければ自己負担額は１０００円にも満たない。麻酔を使用する場合は、その分の費用が計上される。経済的な理由により、あるいは激痛を味あわせようという親の意向によって麻酔無しで処置を受けさせられる少女も少なからずいる。

医師の声を聞き、ひとみは必死に哀願した。処置をされることはもう諦めなければならないが、麻酔をしてもらえれば多少は痛みを軽減できる。本来なら悪態をついて反抗したいところであるが、両足を大きく広げられて固定されている今は哀願するしかない。母は泣いてすがる娘の姿を見て、一瞬考え込んだ。しかし思い直すと麻酔無しの欄に丸をつけてしまった。ウソをついて恋人を作り、セックスまでしていたことに激怒した母は、情け容赦ない処置を娘に科した。

叫び声をあげるひとみを、看護師達は素早く固定した。両方の腕にひもを結びつけ、手術台にしっかり固定した。そして下半身を覆っていた毛布を取り上げ、更に大きく股を広げる。次の瞬間、機械音が響くバリカンが登場し、小学生の頃からひとみの股間をおおうようになったふさふさとした陰毛を全てそり落とした。それが終わるとアルコールの臭気が漂い、ひんやりとする消毒が行われた。

もう逃げることは出来ない。自分の失態を嘆き、非情な両親を恨んだ。しかし凶器の恐怖はすぐそこに来ている。執刀医が現れ、両方の小陰唇に細い針を突き刺した。突如激痛が走り、ひとみは叫び声をあげる。針の先の穴とつながったピンセットを看護師がもち、ひとみの頭の上からおおいかぶさるように体を固定しながら小陰唇を広げた。こうすることによりクリトリスを十二分に露出することが出来るわけだ。

執刀医は右手にもったメスを柔らかいクリトリス包皮に入れた。皮膚が縦に切り開かれ、吹き出してきた鮮血が姿をみせたクリトリス本体を染めた。なるべく根元に近い部分でメスが環状に入り、血まみれのクリトリス本体があらわになった。そこに医師は恐ろしいほどしみる生理食塩水をかけて洗い流した。

もう一本のピンセットが執刀医の手に握られ、ひとみのクリトリスをつまんだ。柔らかい先端部分を鋭いピンセットでつかまれ、鈍い痛みがひとみの全身をかけぬけた。少しずつ根元部分にスライドしていき、普段は体の中に埋まっている部分までが露出された。一度力を抜いてまたつかみ直すことを何度か繰り返し、ＭＡＸまでクリトリスを引っ張り出したところで執刀医は右手にメスをもった。そして、クリトリスの根元に近い部分に慎重にメスをいれた。クリトリスの大部分がひとみの本体から引き離されてピンセットにおさまった。再び生理食塩水で消毒が行われる。

クリトリスをすっかり失った股間で、今度は小陰唇を閉じる処置が行われる。先程まで小陰唇を広げていたピンセットははずされ、針も抜かれた。そして尿道口の上あたりまでを固い糸で縫い付けた。下からも縫い始め、膣の下あたりまでが縫い付けられた。小陰唇は上1／3と下1／3を縫い付けられ、膣と尿道口だけが開いている状態になった。更に大陰唇にも同じ処置が施される。こうすることにより生理的に必要な行為以外は何もできないようになってしまう。これは将来、20歳を越えてから保護者の同意があれば取り外すことが出来る。小陰唇と大陰唇は元に戻るが、根こそぎ切られたクリトリスは生涯取り戻すことは出来ない。

ひとみは途中から泣き叫ぶのもやめた。泣き叫ぶことすら息が続かなくなってしまった。無論、痛みになれたり耐えられたりしているわけではない。意識が失いそうになると消毒や縫合でまた現実にひきもどされる。実際には泣き叫んでいるのだが、もう声も出ないということだけである。最初のメスが入ってからすべての処置が終わるまで、15分以上かかる。そして処置が終わっても痛みは消えることなく、それからしばらくの間はひとみを苦しめることになる。

ひとみは例外的な少女ではない。毎日のようにこの病院には少女がつれこまれ、検査の結果、処置を施されている。医師や看護師の動きは不気味なほどに機械的だった。こうして少女達は性の快感から強制的に遠ざけられていくのであった。